

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第4区分

【発行日】平成26年8月21日(2014.8.21)

【公開番号】特開2014-51734(P2014-51734A)

【公開日】平成26年3月20日(2014.3.20)

【年通号数】公開・登録公報2014-015

【出願番号】特願2013-107742(P2013-107742)

【国際特許分類】

C 22 C 21/00 (2006.01)

C 22 F 1/04 (2006.01)

C 22 F 1/00 (2006.01)

【F I】

C 22 C 21/00 C

C 22 F 1/04 L

C 22 F 1/00 6 0 4

C 22 F 1/00 6 1 1

C 22 F 1/00 6 2 3

C 22 F 1/00 6 3 0 A

C 22 F 1/00 6 8 2

C 22 F 1/00 6 8 3

C 22 F 1/00 6 9 1 B

C 22 F 1/00 6 9 1 C

C 22 F 1/00 6 3 0 K

C 22 F 1/00 6 8 5 Z

C 22 F 1/00 6 8 6 A

C 22 F 1/00 6 9 4 A

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月3日(2014.7.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

得られた板材を試験材(試験材1~8)とし、幅方向の任意の5か所について、EPM-Aを用いて、各々10mm長さの線分析を行い、固溶状態のMgの分布状態を調査し、隣り合う帯におけるMgの濃度の差を求めた。10mm長さの線分析を行うと、複数の帯を測定することになり、濃度差の値も複数得られるが、各か所で隣り合う帯の濃度差の最も大きい値を代表値とした。5か所の代表値を用いて平均値を算出した。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

上記の板材をショットブラストにより粗面化仕上げした後、磷酸および硫酸による化学研磨を行い、その後、硫酸による陽極酸化処理により、10μm厚さの陽極酸化皮膜を形成した。得られた陽極酸化処理材について、目視にて帯状筋模様の発生有無を確認し、ま

た、陽極酸化処理材の幅方向の5か所について、筋模様の発生しているものは筋模様の部分を、筋模様の発生していないものは任意の部分について、EPMAを用いて、各々10mm長さの線分析を行い、固溶状態のMgの分布状態を調査し、隣り合う帯におけるMgの濃度の差を求めた。10mm長さの線分析を行うと、複数の帯を測定することになり、濃度差の値も複数得られるが、各か所で隣り合う帯の濃度差の最も大きい値を代表値とした。5か所の代表値を用いて平均値を算出した。